

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300321		
法人名	社会福祉法人 善友会		
事業所名	グループホームさざんか		
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦654		
自己評価作成日	令和5年7月26日	外部評価結果確定日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体である、医療法人七久会山崎病院が隣にあり、緊急時に迅速な対応や日常の健康管理が適切に提供できる。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271300321-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年8月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>外部評価当日、施設に伺って感じた点として、利用者と職員の笑い声が聞けた事である。特に管理者が率先して利用者に声掛けを行い、職員も一緒にコミュニケーションが取れ、笑顔を感じ取る事が出来た。身体拘束をしない実践として、初級編施設従事者のための自己チェックリストを職員入社の都度、配付し内容を理解してもらい、3ヶ月に一度職員全員参加による身体拘束廃止委員会を開催し、利用者一人ひとりについての状況及び今後の介護について、支援内容を共有している。会議録についても利用者一人ひとりについて、具体的な内容になっている。事故防止委員会会議録も同時に作成されており、身体拘束をしないケアの実践を感じた。食事を楽しむことのできる支援について、食事の準備は利用者にも手伝ってもらい作っており、イベント食についても利用者の要望に合わせたメニューを作成していた。利用者の要介護度については要介護3が2名、要介護4が2名いる中で、食事に関しては全員が普通食で全員自立食であった点は驚きであった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できている。	法人理念とは別に「みんなで暮らしを楽しむ」を理念に掲げ、利用者本人がしたいことをサポートしており、脳トレグッズやパズルの他にも編み物をしたい方には材料を購入し、提供している。普段あまり何も行っていない利用者へ、塗り絵やバランスゲームなどを他の利用者と共に勧めると、興味を持って皆と楽しむ事がある。管理者自ら率先して利用者への声掛けをしており、職員と理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行えていない。	新型コロナが続く中、地域とのつきあいについてはなかなか交流が難しい状況にあった。唯一近所の理髪店の店主が、2ヶ月に一度利用者の整髪に来られて交流している。最近では利用者が希望されればカラーも行っている。自治会への報告については、運営推進会議の議事録を渡すのに留まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	少しずつ活かしている。	対面での運営推進会議が開催されなかった時期は、運営推進会議報告書という形でグループホームさざんかから報告していた。令和5年からは、対面で再開できて法人全部のグループホームの運営推進会議を、一括して行うことになり、他のグループホームでの事例等が参考になる事がある。報告書作成後はグループホームさざんか全体の、「さざんかでの毎日」の写真と一緒にご家族様全員へ郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的には取り組めていない。	コロナ流行期においては、市町村への連絡も控えていた。過日、新規利用者の初期加算の算定に間違いがあり指摘を受け訂正する。これまでは運営推進会議記録に利用者の写真を添えて報告していたが、今後は介護支援に不明な点があったら事前に相談をしたいと思う。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解して取り組んでいる。	身体拘束については、虐待行為も含めて、施設従事者のための自己チェックリストを職員の入社時に、配付し身体拘束について理解をしてもらっている。3ヶ月に1回職員全員参加の身体拘束廃止委員会を開催し、利用者一人ひとりに、身体拘束未実施を確認した上で、問題点や支援内容について話し合いを行い、再度身体拘束は行わないという決意を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは契約時に利用者様からは日常的にお茶の時間等に意見を聞いている。	新型コロナが5類に移行後は、ご家族との面会は対面できるようになった。但し居室への入室は許可出来ず、事務室を利用して、5分～10分程度で行っている。利用者の孫からサンドイッチが好物と聞き、早速提供したところおいしそうに食されたとの事である。面会時間等を利用して、より積極的に利用者の要望を伺えるようにしたいと思う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見や提案を出してもらっている。	月に1回の職員会議は、他の研修も兼ねて行う事になっているため、当日休日の職員にも参加してもらい、全員参加の会議となっている。職員からの提案として、利用者の入浴時に使用する椅子について回転する椅子の購入を求められ、すぐに採用し利用者へのサービスが向上したとの事である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場が明るくなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内、職場外の研修にも力をいれていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ交流する機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入所時にご本人様に困りごとやご要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に困っていることや不安なこと、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、利用者様ご本人ができることは無理のない範囲で一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様本人が希望されれば、ご家族様に電話を繋げたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある理容室から散髪にきてもらったり、利用者様に手紙、届け物があったときはお礼の電話を繋げている。	新型コロナが5類に移行になって、これまで車椅子を使用している、利用者の体重測定はグループホームさざんかでは、測定できていなかったが、協力病院にある特殊体重計を使用して体重測定が可能になった。以前は定期的にパンの販売に来ていたが、コロナ以後販売が中止となっていた。これからはパンに限らず利用者が求める品物を販売できるように努力していきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格等を考慮して孤立したり、対立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の相談や支援はできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ご本人が食べたいメニューやしたいこと等を聞くよう努めている。	入所時や面会時に、自宅で過ごしていた時の好みなどを確認している。自らの思いはなかなか発せないが選択肢があれば、これが良いという意見があがる。手紙を書きたいという希望や手作りした品を送りたいという要望に関しては、ご家族様にも協力してもらい叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や面会時の際に、ご家族様に聞きとりをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員に把握してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できている。	今年3月からケアマネが交代し、介護計画書の様式も変更となり課題分析の結果も記載することになったため、より充実したものとなった。基本的にケアマネが作成し、職員で共有しご家族様にも確認をもらっている。ご家族様からの要望である運動を取り入れたことにより、運動機能がよくなった例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に変化、気づき等記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむことができるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力母体の山崎病院をかかりつけ医にさせていただいており、医師との良好な関係を維持しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	隣接する山崎病院の訪問診察が2週間に1回あるため、利用者の変化に気づきやすい。夜間・休日もエレベーター続きで迅速な対応ができるので、ご家族様や職員も安心できる。以前からのかかりつけ医の受診はご家族様の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	山崎病院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のみに話し合いをしている。	施設では医療的ケアができないため、食事が摂取できない、食事形態の変更、入浴が機械浴を必要とする等、重度化した場合は主治医とご家族様との話し合いの上、母体の医療機関または特別養護老人ホームへの移行を促している。現時点の利用者は要介護4が2名いるものの皆、意思疎通ができ食事も自立食で車椅子で自力移動ができるほどしっかりとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練はできているが、地域との協力体制は築けていない。	前回までは隣接する同法人と合同の避難訓練を行っていたが、今年3月独自の消防計画書を作成し、地元の高来分署の協力も得て5月に単独での避難訓練を行った。11月に2回目を予定している。備蓄も昨年より品数が増え充実していた。隣接する同法人には、いつでも協力が得られるという事で安心感がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけをしている。	常に優しい言葉かけをすることで、利用者も和やかな雰囲気である。居室は常に開かれているが、共有空間で過ごされることが多いようである。介護度が低くトイレも自発的に行くことが多い。個人情報の取扱いについては入所時に同意書を得ている。	共有空間近くのトイレの入り口はカーテンで仕切られており、ドアを閉めずに利用しているため、施設側としても入り口の改善を検討しているとの事である。プライバシー確保ができることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者様に決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴日以外は、できるだけ利用者様の意思を尊重して生活を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様にくしで髪をとおしてもらったり、好きな洋服を着ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭きなどのお手伝いをさせていただいている。	台所が共有スペースの前にあり、利用者の様子が分かると共に、食事の準備の香りや音等五感の刺激がある。利用者と共にやしのひげとりやゴボウのさがきなど食事の準備をし、食後の後片付けも手伝うなど、家庭の延長としての過ごし方ができている。全員が自立食で和気あいあいとしている。	職員が2週間毎メニューを決めて食事の準備をしているが、栄養面のチェックができていないとの事のため、同法人の栄養士にチェックをしていただくよう期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ一人ひとりに合うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの言葉かけをして、失敗やパット使用量を減らすよう支援している。	以前から継続している朝の体操や、午後の運動により立位保持がしっかりとしてきたおかげで、パットの使用量が減少しているようである。また、パットの使用者が少なく夜間のオムツは1名のみとのことである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後の体操や個々に合った運動をさせていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているため、個々に合った支援はできていないが、午前・午後・順番は利用者様に決めていただいている。	入浴日は週2回午前、午後と決まっているが、利用者の希望に沿った支援ができている。入浴を拒否する方には、体重を測りに行きましょうと浴室へ誘導することで、無理なく入浴できている。脱衣室が広く手すりや椅子など置いてあるので、着替えがしやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じて、室温などに配慮し適切に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などを職員に目を通してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や食器拭き、洗濯物をたたんでもらって、利用者様の力を活かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外へ出かける支援はできていない。	コロナ禍より車での外出ができていないが、施設の周辺を散歩したり、すぐ近くの自販機まで飲み物を買に行ったりするなど、ちょっとした気分転換ができています。ご家族様との外出は主治医の許可を得たうえで行うことにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルを避けるため、利用者様が必要な物はご家族に依頼するか、ホームの方で立替するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族様の希望で電話でお話をしてもらったり、手紙を書いたりもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に合った飾り付けをし、毎月の月末に次月のカレンダーの色塗りをしてもらって季節感を取り入れている。	台所とダイニングは毎食後、掃除を行っている。職員と共にレクリエーションの中で塗り絵をしたりして季節に合った飾り付けをしている。全体的にスペースが広いので、シルバーカーを用いて共有空間の中でも歩行訓練などができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルの席の隣同士や前後で話がしやすいように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火を扱うもの以外で家で使用していた物や好きな物があれば自由に持ってきていただき、利用者様が居心地よく過ごしていただいている。	居室も広々としていて個々で持ち寄った思い出の品やご家族様との写真、贈り物で飾られていて、利用者が安心して過ごせる居心地のよい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクが高くない限り、できるだけ見守りだけで好きなことやできることをしていただいている。		